

第4回技術情報検討会議事概要

1. 日 時：平成25年9月9日（月） 10:00～12:00

2. 場 所：原子力規制委員会13階C会議室

3. 出席者：

原子力規制委員会

更田委員

原子力規制庁

大村審議官、市村安全規制管理官（PWR・新型炉担当）、信濃安全規制管理官（試験研究炉・再処理・加工・使用担当）、小原安全規制管理官（廃棄物・貯蔵・輸送担当）、青木国際課長、山田技術基盤課長、

田口企画班長、柏村安全審査官、榊見原子力保安検査官

事務局

吉田安全研究推進室長、小林技術基盤課課長補佐、有吉原子力規制専門員、坂本原子力規制専門員、太田原子力規制専門員

原子力安全基盤機構

平野総括参事、佐藤総括参事

企画部：野口部長、山下次長、大角主任研究員、伊藤主任研究員

検査評価部：沢田次長、菅野技術参与、大高グループ長

原子力システム安全部：川口主事、畑調査役

核燃料廃棄物安全部：加藤部長

耐震安全部：高松部長

日本原子力研究開発機構

渡邊規制情報分析室長

4. 議題： （1）技術情報の検討について
（2）その他

5. 議事要旨

事務局及び原子力安全基盤機構（以下、「JNES」という。）より、議題（1）「技術情報の検討について」について、資料の順に従って説明した。

出席者の主な意見は以下のとおり。

○事務局より、「第3回技術情報検討会議事概要」（資料4-1）、「スクリーニングと対応安全情報の状況」（資料4-2）、2次スクリーニングの検討状況（資料4-3）の説明があり、了承された。

○対応安全情報とする案件（資料４－４）

<電源系統の設計脆弱性>

- ・米国では、GDCの基本的な考え方にに基づき、設計に立ち返って1相開放故障についても監視のみでなく自動的な対応を求めている。
- ・国内事業者は、米国の動向を注視するのと並行して、既に検討に着手しており、規制庁としても報告を求める。
- ・本課題は要対応技術情報とする。

○対応安全情報とするために更なる調査を必要とする案件（資料４－５）

<発電所の配電系統電圧の妥当性>

- ・本課題が発生した場合の影響は大きいですが、米国の送電電圧の状況とは異なるため、国内における発生の可能性は低い。
- ・本課題に関する国内事業者の対応方針等を確認し、今後の取り扱い対応を判断する。

○2次スクリーニングで終了とする案件（資料４－６）

<鋼製格納容器の劣化及び運転認可更新における経年劣化管理上の問題>

- ・本課題は、格納容器のアクセス不能領域における水の滞留による腐食の可能性を示す事例である。国内では、常に最新知見を反映して高経年化評価を行うことになっており、本課題に関する対応については、その中で対応する。
- ・本課題は2次スクリーニングで終了とする。

<許可更新のための経年劣化に関する教訓報告（GALL Rev.2）の情報>

- ・本課題については、審査において考慮するとともに、IAEAにおいて進められている検討も踏まえ必要に応じ規制基準類への反映により対応する。
- ・本課題は2次スクリーニングで終了とする。

<経年劣化に関する教訓報告書と最近の認可更新申請書との整合性に関する知見>

- ・本課題は、米国における規制手続きに関するものであり、米国特有の問題であることから、2次スクリーニングで終了とする。

<燃料の熱伝導率低下による現実的なECCS評価モデルへの影響>

- ・第2回技術情報検討会に基づき、敦賀1号機のLOCA時における燃料被覆管最高温度（PCT）について、燃焼による熱伝導率低下の影響を確認した。その結果、PCTの上昇幅は約6℃であり、判断基準に対して余裕があることが確認できた。
- ・本課題は2次スクリーニングで終了とする。

○事務局より、「規制庁で入手したトラブル情報」（資料４－８）「対応安全情報リスト（累積）」（資料４－９）の説明があり、了承された。

○第2回技術情報検討会で報告した、米国におけるLaSalle 1, 2号機の落雷による外部電源喪失事象について、その後の状況を調査して報告する。

以上